



chapter 1

基礎編

まずは近2走を凝視せよ

近2走の内容がよい馬を買う

レース結果に一番直結するファクターは何か？というところ、それは『(着順を始めとする)近走の内容』だ。近走の内容こそ、今回走る・走らないを最も左右する。実際、データをみても、前走の着順がよいほど、好走率は(概ね)高くなっていることが分かる。

また、(前走の着順だけでなく)『2走前の着順』も同様に、今走の結果に影響する。試しに、前走を一律『同クラス5着』で固定し、『2走前の着順』ごとにデータを調べると、やはり、2走前の着順がよいほど好走率は高くなっていた。※ただし、着順の良さは、直にオッズへ反映されるので、回収できるかは、また別の話になる。

近走の内容がよい馬は、よく走る。逆に、近走の内容が悪い馬は走らない。狙うべきは近走の内容がよかった馬だ。

「何を今さら、当たり前前のことを…」と思われたかも

しれないが……。その当たり前のことを、私たちは、案外、なおざりにしている。スポーツ紙の有力情報に踊らされたり、穴の要素に惹かれたり。競馬新聞に◎印が並んでいるからと安心してしまったり。

結果的に、私たちは、なんだかんだで近走がイマイチの馬を本命にしまっているのである。それで、レース後、ようやく冷静になり、「なんで、こんなイマイチな馬と心中しちゃったんだ!？」と、自責の念にかられたりする。

まずは、近2走。近2走内に評価できる『3着内』、もしくはそれに準ずるレース内容が最低限、欲しいところ。言うまでもなく、その3着内は、恵まれた3着内ではなく、しっかりと中身の濃い3着内が望ましい。字面の着順がよいだけで中身が伴わない3着内なら、それは「着外」に等しい。

一方で、『3着外』だったとしても、内容が良ければ、好走(3着内)と同じだけの価値がある。※だから、ここで言う『評価できるレース内容』とは、必ずしも上位の着順を指すものではない。

たしかに、大敗続きの馬が大穴を演出することはあ

前走着順別成績

前走着順	複勝率	総数
同級 1着	42.0%	1715
同級 2着	49.8%	30163
同級 3着	39.9%	30093
同級 4着	31.8%	30022
同級 5着	26.0%	29920
同級 6~9着	17.1%	110027
同級 10着~	8.5%	130947

前走(同級)5着固定

2走前着順	複勝率	総数
同級 1着	37.6%	109
同級 2着	40.5%	2337
同級 3着	34.0%	2565
同級 4着	29.6%	2588
同級 5着	26.7%	2541
同級 6~9着	23.4%	7877
同級 10着~	18.8%	5738

*全オッズ範囲 *地方・海外を除く

*同級1着の複勝率が低いのは「休み明け」が多いため。勝って同条件となる馬は、休養中にクラス編成の時期を迎えて降級のパターンが多い。

る。だが、それは、しよせん「狙えない穴」。結果的に走ったというだけの話で、走る確率は極端に低いのである。

近走がイマイチの馬を狙う無謀さ

私も昔は、『穴っばい穴』を狙っていた時期があった。近走の内容は、たいして気にせず、「穴バターン」に該当した馬をどんどん買った。その結果、どうなったか？ ある時期に、悲惨なほどの大スランプに陥ってしまったのだ。一撃の破壊力は大きいので、ドカンとプラス収支に反転することもあったが、とにかく不振のトンネルが果てしなく長かった。

穴っばい穴は、極端に的中率が低いため、一度、負のスパイラルにハマり込むと、なかなか抜け出せなくなる。まるで泥沼地獄・アリ地獄だ。

だからこそ、私は頑として『穴でない穴』を狙う。泥沼にハマり込むリスクを回避するため、『穴っばい穴』には、極力、手を出さない(中心視しない)のである。どれだけ追い切りの動きが良かろうが、よい騎手に乗

狙ってはダメな例

■16年香港カップ エイシンヒカリ 2人気10着

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

前走は1.3秒差の12着。2走前はシンガリ負け。近2走は、自分の形(逃げ)に持ち込みながら、全くだいいところが無かった。それでも、過去の実績が評価され、2番人気に祭り上げられていた。

この場合、評価できるのは無論、『前者(2走前○
↓前走○)』の方だ。

▼2走前○↓前走○
2走前×↓前走×

この理由は、分かんと思う。前者は(直近となる)前走のレース内容が○評価。加えて、2走前も○評価である(連続○評価)。対する後者は、直近のレース内容が×評価。さらに2走前も×評価である。では、次の場合はどうか？

2走前○↓前走×
2走前×↓前走○

このケースでは、『後者』に軍配があがる。

り替わろうが、『近走でいいところナシ』の馬を本命にすべきではない。無謀な穴狙いは、果敢な勇氣ではなく、『匹夫の勇』に過ぎないのである。

着順の基礎

ここで、着順の基礎について説明しよう。

まず、一番重要なのは『前走』だ。基本的な話として、着順の重要度は、『3走前↓2走前↓前走』の順で高くなる。

日が近いほど、(当時の着順と)今走の結果はリンクしやすくなる。極端な話、もの凄い強さで圧勝しても、それが20走前なら、今回の結果とは、ほぼ無関係だろう。

たとえば、レース内容が、それぞれ以下のような評価の(2頭の)馬がいたとする。※○、×はレース内容の評価

◎バツグン、○良い内容、△マズマズ、×評価できず。

2走前○↓前走○
2走前×↓前走×

なぜなら、(一番結果とリンクしやすい)『直近のレース内容』は、後者の方が勝っているからだ。(先に述べたように)着順の重要度は、『3走前↓2走前↓前走』の順で高くなる。したがって、2走前○評価よりも、前走○評価の方が、格段に重みがある訳だ。ここまでは、基礎の話である。

まとめ

直近のレース内容が、今走の結果と一番リンクする。前走の内容は、良いに越したことはない。

『好→凡』巻き返しパターン

では、次の場合はどうか？

2走前×↓前走○
2走前○↓前走△

かたや、前走が○評価。かたや前走が△評価(ただ

し、2走前が○評価。この場合、(一概には言えないが)『後者(2走前○→前走△)の方が評価できる。

2走前×↓前走○

▼2走前○↓前走△

(後者の方は)前走のレース内容こそ△評価だが、2走前がバグン(○)だ。仮に、前走(△)の敗因がハッキリしているなら、人気が落ちる分、こちらの方(2走前○→前走△)に妙味がある。

一方、前者の方は、前走のレース内容が○評価で悪くないのだが、2走前が×評価。やや信頼度に欠ける。

危険なパターン

次のようなパターンの馬は危険である。

2走前10着↓前走3着(※スロー先行)

2走前が10着、前走がスロー先行で3着。このケー

スだと、まず前走はスローペースを先行しただけの3着なので、あまり評価はできない(評価△)。そして、2走前は10着大敗(評価×)。すなわち、『2走前×↓前走△』の評価。10着↓(当てにならない)3着となり、これでは本当に近走で充実しているかは疑わしい。だが、これももし、2走前で好走しているなら、話は別だ。

2走前3着↓前走3着(※スロー先行)

2走前に3着好走。(前走は△評価の3着だが)連続好走となり、(先の例よりは)信頼度は上がる。仮に、2走前の内容がよければ、前走は『好調キープ』とみなすことができる。

だが、2走前が10着の場合、前走の3着は『ペースに恵まれた分、好走できた』可能性が高くなる。仮に、まともなペースなら、凡走していた可能性が高い。低評価が続くので、信頼度はイマイチだ。

デキ落ちの可能性が高いのは?

前走で何らかの「不利」があつて『大敗』したとしよう。前走で不利があつて大敗したが、2走前のレース内容はバグンだったとする。

2走前○(バグン)↓前走大敗(不利あり)

この場合、前走の大敗は(デキ落ちが敗因ではなく)「不利によって負けた可能性が高い」と推測できる。なぜなら、(2走前の)バグンだったレース内容から一転、次走で急激にデキが下降して大敗することは、考えづらいからだ。

しかし、2走前の内容がイマイチだったとしたら、どうだろう? 前走の大敗は、徐々に調子を落とした末の大敗かもしれない。前走は、仮に不利がなくても、どのみち凡走していた可能性が高いのだ。

2走前△(イマイチ)↓前走大敗(不利あり)

デキが良いのに負けた馬を狙う

前走で不利があつて負けた場合、2走前のレース内容によって、評価は大きく変わるのである。

仮に、前走で凡走した場合、それが『デキ落ち』によるモノなのか? それとも、デキ自体は問題なく、その他の要因(条件不向き、馬場、展開など)で凡走したのかを、よく見極める必要がある。狙うべきは、デキが悪くて負けた馬ではなく、『デキが良いにもかかわらず負けた馬』の方だ。

実は、(凡走から)巻き返す馬の多くは『もともと調子が良かった馬』である。調子は良かったが、なんらかの原因で着順を落とした。その原因は気性の問題かもしれないし、道中の不利かもしれない。あるいは条件が不向きだったのかもしれない。

とにかく、何らかの『敗因』がある。その敗因さえ無ければ、おそらく好走していただろう」という馬が、次走で巻き返すのだ。敗因はさまざまで、

- ・不向きな条件(距離、トラック、レース質)
- ・不利(物理的不利、馬場、枠、展開)
- ・気性的な問題(砂被り、先行できず)など

このような馬(デキが良いにもかかわらず凡走した馬)は、次走以降、条件替わりなどで、あっさりと巻き返す。調子自体は悪くないのだから、条件さえ整えば当然のように走ってくる訳だ。『調子が良くて負けた馬』を見つけ出すことが、穴馬券を獲得上で、ひとつの重要なポイントとなるのである。

近3走のつながり重視する

好内容のバトンはつながつているか？

近2走をチェックしたら、次は『近3走』まで範囲を広げる。近3走まで、くまなくチェックできれば、

3走前◎↓2走前◎↓前走◎

(当たり前だが、一番理想的な形だ。【3走前×↓2走前◎↓前走◎】よりも【3走前◎↓2走前◎↓前走◎】の方が評価できるのである。

「当たり前すぎて、聞く気が失せました」と思われたかもしれない。だが、この本を閉じる前に、一度よく考えてみて欲しいのだ。『近3走のつながり』について――。

つながりとは？

一番、理想的な形は【3走前◎↓2走前◎↓前走◎】と話した。この形がよい理由は、近3走で『つながり』がある点だ。つながりとは、要するに『好内容が続いている』ということ。3走前↓2走前↓前走と、好内容のバトン”がキチンと手渡されている。途中で誰かがバトンを落としていない(＝不可解な凡走がない)状態だ。

逆に、好内容のバトンが途切れている馬は狙いづら

これが、もし、本当に『不調(＝デキ下降)』によって着順を落としたのなら深刻だ。なぜなら、大抵、そのまま下降線をたどるからだ。馬そのものが沈滞している状況では、いくら条件を変えたところで巻き返しようがない。

本書では、さまざまな馬券テクニックを紹介しているが、これは『デキが下降していない』という前提のもとで話している。つまり、いくら期待できるパターンに該当していても、デキが下降して不振に陥っている馬では『好走の見込みは薄い』ということだ。

おおむね、その馬の(現状の)デキや能力は把握できる。一番狙えるのは“近3走のレース内容がすべて良い馬”。すなわち、以下のような形の馬だ。

3走前×↓2走前×↓前走◎

い。たとえば、近3走のレース内容が以下のような馬だ。

この馬は、たしかに前走だけみれば、強かったかもしれない。だが、3走前、2走前はサッパリだ。これでは、とても全幅の信頼を置くことはできない。好走のバトンが“途切れた状態”である。

いくら、前走が強くても、近3走のつながりがない馬は中心視しづらい。なぜなら、前走は“突発的な激走”だったかもしれないからだ。仮に、突発的な激走なら、反動の心配があるし、もう一度激走してくれる保証はどこにもない。(気性に問題があつて成績が安定しない)“ムラ馬”という懸念も残る。ヒモなら構わないが、本命には相応しくないものである。

つながりがあるパターン

一番の理想は、【3走前◎↓2走前◎↓前走◎】の

形。だが、なにも、連続で好走中の馬だけが、つながりがある訳ではない。たとえば、次のようなケース。

3走前△ ↓ 2走前○ ↓ 前走◎

このケースでも、つながりは「ある」。3走前はマズマズだが、2走前が良い内容、前走はバツグン。3走前→2走前→前走という具合に、尻上がりレース内容が良化している。つまり、『徐々に調子を上げていく』と判断できる。もし、3走前が『休み明け』なら、叩きつつ良化しているかと判断できるだろう。では次のケースはどうか。

3走前○↓2走前○↓前走○

このケースでは、バツグンのレース内容こそ含まれていないが、近3走はそれなりの水準で安定している。つまり、つながりがある。この点において、【3走前×↓2走前×↓前走○】よりも評価できるのである。

敗因はあるか？

凡走したときに、(敗因ありの)『言い訳できる凡走』だったのか、それとも『訳のわからない凡走』だったのか、によつても「近3走のつながり」具合は変わつてくる。

たとえば、【3着↓10着↓3着】という成績の馬がいたでしょう。このとき、2走前の10着に確固とした敗因があるのなら、近3走のつながりは「維持された」状態だ。

○つながり有り

3着↓10着(敗因あり)↓3着

たとえば、直線で前が詰まって全く追えなかったとか、明らかに適性が不向きだった等。明確な敗因があり、大敗止むなしなら、目をつむれる。（決して高評価はできないが）「度外視できる10着だった」と酌量できる。この場合、好走のバトンはつなぐった状態だ。しかし、2走前の10着が、（敗因不明の）『訳のわか

つながり『有り』の例

■17年皐月賞 アルアイン 9人気1着

馬番(58,0161)	松	タディーズインパクト 牡 3	血付 4 母 10.0.1	3 母 7 父 2 千両 500 150 1	1 京 9 1 シン 記 訓 5 6	6 父 3 3 母 日 杯 欄
△57	ハイ	アイ	3 0 0 0	大 3 4 1365 千 1550	大 3 4 1384 千 1566	大 3 4 1465 千 1566
1000	ハ	イマジスティ 雌 毛	00112240 2800	036 7 35 1	036 8 0 2	036 8 3 4
18.8	←	Essence of Dubai	2 2 0 0 0 0	0 2 4 0 3 5 15 11 5	0 2 4 0 2 5 14 7 2	0 2 4 0 3 5 20 3 7 2
		センターレーザンファーム	2 2 0 0 0 0	0 3 1 4 5	0 3 0 6 38 10	0 3 0 3 38

2走前のシンザン記念(6着)は、直線でまともに挟まれる致命的な不利。度外視できる一戦だった。その2走前を除けば、すべて1着という非の打ちどころのない成績だった。

つながり『無し』の例

■16年アメリカJCC サトノラーゼン 1人気10着

福岡(62.1)63.4	F	ディープインパクト 社4	地方有馬0.0.0.0	2東35.3タービG18	2中55.3シエン記G15	7京成加賀菊花賞G18
00▲▲▲▲	56.1	サトノローゼン	3-4-3-2	2C2235.35	三雄2141.35	三雄3044.45
		ローゼン(美)	A013.440 7500	M36.7-34.2519157	M37.8-34.51519157	M37.3-35.31912191
		Intikhab	・3月休養	M37.0-34.5451175	特選270.3462.61	特選270.3462.61
3.4	←	ローゼンファーム	・12月休養	特選270.3462.61	特選270.3462.61	特選270.3462.61

前走の菊花賞(5着)はソコソコの内容だったが…2走前のセントライト記念(7着)は、とくに不利もないのにイマイチ伸び切れず。近3走で、つながりがあるとは言い難い。

走のボタンは途切れてしまった状態だ。

△つながらり無し

3着↓10着(敗因なし)↓3着

同じ近3走でも『つながり有り√つながり無し』の評価。近3走内に凡走が含まれている場合、明確な敗因があるに越したことはない。仮に、まったく同じ近3走の成績だったとしても、“つながりの有無”によって、評価は大きく変わるのである。

『目をつむれる大敗』には、以下のようなものがある。

- ・ 適性のないトラック(芝・ダート)
- ・ 致命的な不利
- ・ 道悪(ノメった)コメントあり
- ・ 明らかに格上のレースや海外など

近3走のうち、（上記敗因による）大敗が1つだけ含

まれている。あとの2走が好内容ならば、つながりは維持されている。※大敗した場合『その不利が無ければ、上位にきていたか?』を、考えるといい。

休み明けの位置

【3走前×↓2走前○↓前走○】という馬がいたとする。このケースだと、つながりは“弱い”。なぜなら、2走前(○)↓前走(○)と好走のバトンがつながっているが、3走前(×)がダメ。つながりは近2走のみ。『近3走のつながり』という点では不合格だ。ところが、次のように『休み明け』を挟むとどうだろう?

3走前×↓【休み明け】2走前○↓前走○

3走前に凡走した後、放牧へ。休み明けを挟んだ2走前から好内容が続いている(つまり、今回が叩き3走目)。このパターンについては、つながりは“ある”。なぜなら、2走前の休み明けでリセットして立て直した、と読み取れるからだ。近3走とも好内容の馬には

劣るが、つながりという点では一応、合格である。

つながりのある馬を本命に据える

本命に据える馬は、つながりのある馬が望ましい。いつ走るかわからない“気分屋”では、軸として心もとない。アテにならない気分屋に大事なお金を託すのは、それこそ一か八かの賭けである。いくら、こちらが会心の予想をしても、その馬の気分次第で不的中になるのでは、戦略は成り立たない。これでは、いつまで経っても、馬券の成績は不安定のままだろう。ムラ馬では、本命の大役はつとまらないのである。※とくに下級条件では、(アテにならない馬が多い分)つながりの有る馬を本命に据えることが望ましい。

もちろん、つながりの無い馬が好走することはある。後からみれば、そんな事例はいくらでもあるだろう。だが、それはあくまで『後からみれば』の話。多くの該当馬の中から少数が走っただけで、確率そのものは低い。(高い打率が要求される)『本命』には不相応な馬なのである。

逆に、近3走でつながりのある馬を本命に据えれば、グッと安定感が増す。きちんと理にかなった予想さえできれば、限りなく的中に近づくのである。

近3走で好内容が続いているか? 近3走で凡走が含まれている場合、ハッキリと敗因があるか? 本命に相応しいのは近3走で『つながりのある馬』だ。

堅実な馬を買え

ムラな馬は中心視しづらい

競馬は、不確定要素が多い。出遅れ、不利、故障…。常に不測の事態と隣り合わせだ。また、仮に馬自身はしっかり走ったとしても、必ずしも上位に入線するとは限らない。騎手がペースを見誤ったり、外々を回らされたり、不利を受けたりすれば、平気で下位の着順に沈む。競馬は、コンマ数秒という刹那で勝敗を決する世界。それだけに、わずかなほころびが、結果的に致命傷となりかねない。

そんな不安定かつ、不確定要素の多い競馬で、『ム

ラな馬』を買っていると、それこそ金はいくらあっても足りなくなる。ただでさえ、好走を阻む要素が多い中で、馬が気まぐれで走ったり走らなかったりでは、お話にならない。そこで、頼りになるのが『堅実な馬』だ。堅実な馬を中心視すれば、おのずから馬券の成績は安定へと向かうだろう。

堅実な馬は強い

まず、根本的な話として、次のことは頭に入れておいた方がよい。

『堅実な馬は強い』

少なくとも、堅実な馬に弱い馬はいない。なぜ、そんなことが言えるのか？ その理由は、堅実な馬は“調子のいいときでも、悪いときでも”関係なく走っているからだ。

調子がいいときに好走するのは、まあ当然の話だ。だが、調子が悪いときにも好走するには、高い能力が必須。高い能力があればこそ、デキが下降していても、それを地力の高さでカバーし、馬券内に食い込める訳だ。

A級ピッチャーと、B級ピッチャー

野球のピッチャーを想像してみたい。B級のピッチャーは、調子のいいときは球が走っているの抑えられる。だが、調子が悪いと、すぐにノックアウトだ。フォアボールを連発したり、カンタンに一発を浴びるなど大量失点して崩れるケースも目立つ。

だが、A級（エース級）のピッチャーは違う。調子のいいときはもちろんのこと、調子が悪いときでも悪い

なりに粘って試合を作る。ノラリクラーリと投げた4失点ぐらいで切り抜ける。これがA級とB級の違いだ。

堅実な馬は能力が高く、調子が悪くても能力でギリギリ3着に残れたりする。だから結果的に、堅実な成績になる。

もし、甲乙つけがたい2頭の馬がいたら、私は迷わず堅実な方を選択する。堅実な馬は目論見どおり走ってくれることが多いので、きちんと計算が成り立つからだ。

※堅実な馬の線引きは、トータルの『複勝率』で判断する。同一トラック（芝なら芝、ダートならダート）の複勝率が条件戦で『55%』以上、重賞レースで『75%』を超えているようなら、堅実な馬として注目に値する（ただし、全体のキャリアが浅い馬は除く）。トータルの複勝率は低くても、『近10戦の複勝率が8割以上』なら堅実な馬とする。

堅実な馬が崩れたら

堅実な馬がガタツと崩れたら、どう判断すればいいだろうか？ たとえば、ずっと2〜3着を繰り返していた馬が、突如10着に沈んだら？ これはケースバイ

ケースだが、とりあえずマークはすべきだ。もちろんそれは極度の不振によって、堅実駆けにピリオドが打たれた可能性がある。だが、これまで長きに亘って積み重ねてきた実績”。その評価がわずか一度の敗戦

によって地に落ちるのであれば、（オッズ的に）これほどオイシイ話はないのである。しっかりとした敗因さえ掴めれば、次走は積極的に買いとる。（堅実駆けの人氣落ちを狙うやり方は）『穴でない穴を狙え』という私の基本理念にも通じる。

堅実な馬が人氣落ちで激走した例

2015年のヴィクトリアマイル。同レースを、5番人氣で勝利したストリートガールは、前走で13着の大敗を喫していた。だが、それ以前はずっと安定した走り。大きく負けたのは、前が壁でまったく追えなかった函館スプリントS（11着）のみ。近15戦中、13戦で馬券内という、とてつもなく堅実な走りを持っていた。2015年の有馬記念。8番人氣で勝利したゴールドアクターは、それまでの複勝率が『7割超』（覚醒

した）3歳夏以降に限れば、6戦5勝、3着1回（菊花賞3着）と、限りなくパーフェクトに近い成績を残していた。

2016年の中山牝馬S。4番人氣で勝ったシュンドルボンに、前走でワケありの敗戦を喫したが、近10戦の連対率は7割に達していた。

このように、堅実な馬が人氣薄で激走した例は枚挙にいとまがない。仮に前走で凡走していても、間隔を開けたり、条件替わりで巻き返すパターンは多い。

堅実な馬は芝レースで狙い

堅実な馬が、より評価できるのは『芝レース』だ。なぜなら、芝レースはダートに比べて連続で好走しづらい性質があるからだ。※連続で好走しづらい理由は、芝の方が時計が速く、疲労がたまりやすいから。そんな（連続で好走しづらい）芝レースで堅実に走れる馬は、まず能力が高い、とみて間違いないだろう。

『堅実な馬は強い』

堅実な馬であっても、何らかの理由で人気を落とすケースがある。このようなケースでは、その場の空気

に流されず、冷静に（これまで積み重ねてきた）過去の堅実な走りを思い出すようにしたい。

後続を見よ

後続につけた差をみる

突然だが、ここで質問だ。（左ページ下部記載の）A、Bのうち、高く評価できるのは、どちらの馬だろうか？
※5着以下の馬をじっくり観察して頂きたい。

A コクラクリチャン、B コクラテイオー。どちらも前走の着順は4着。着差は、同じ0.3秒差。着順も着差も同じ。では一体、この2頭のどこが違うのか？それは『後続につけた差』だ。

Aのコクラクリチャンの場合、後続との差はわずかに後続にハナ、ハナ、アタマ差の4着で、7着馬と、ほとんど差がない。

一方、Bのコクラテイオーは、後続に“5馬身”もの差をつけている。さらに、5着馬と6着馬との差も開いている。かたや後続と僅差。かたや後続と大きな差。どちらの価値が高いか、もうお分かりだろうか。冒頭に出した質問の答えは、（後続に5馬身の差をつけた）Bコクラテイオーの方である。

Aのコクラクリチャンは、一応4着ではあるが、7着馬と、ほとんど差がない。ともすれば、ほんのちょっとした展開のாயなどで7着になっていた可能性がある。つまり、“紙一重”の4着だ。

一方、Bコクラテイオーの4着は、同じ4着でも、後続（5着）に5馬身もの大差をつけている。ちょっと

やそつとじゃ動じない“盤石の4着”と言える訳だ。

オイシイのはどちらか？

ここでもう一度、コクラクリチャン4着時の成績をよく観察してもらいたい。『次走でオイシイ穴馬』が潜んでいるのだが、どの馬かお分かりだろうか？

答えを言うと、7着の馬である。この7着馬は着順こそ悪いものの、4着のコクラクリチャンと、たいして差がない。つまり、ちょっとした仕掛けのタイミンで、通った進路、展開などのサジ加減ひとつで4着に好走していた可能性がある。

たいてい差が無いのであれば、（4着に走ってしまった）コクラクリチャンより、7着馬の方がオッズ的には妙味がある。※仮に、勝ち馬が、圧勝なら、（2着とは僅差でも）『着差』は開いてみえるので、余計にオッズの妙味は発生しやすい。

もちろん、さまざまなケースがあるので、一概に妙味があるとは言えない。たとえば、スローなら接戦になりやすいし、（芝で）道悪なら差は開きやすいだろう。展開等に恵まれただけなら、狙っても結果は知

A：コクラクリチャン

1着 ○○○○○
2着 ○○○○○
3着 ○○○○○
4着 **コクラクリチャン (0.3 差)**
5着 ハナ差
6着 ハナ差
7着 アタマ差

B：コクラテイオー

1着 ○○○○○
2着 ○○○○○
3着 ○○○○○
4着 **コクラテイオー (0.3 差)**
5着 5馬身差
6着 2馬身差
7着 クビ差

例1 リッチーリッチー
17年白鷺特別 1着(次走1人気1着)

着順	馬名	着差
1着	リッチーリッチー	
2着	ララエクラテル	アタマ
3着	ビップレボルション	5馬身
4着	ケイブルグラム	3馬身半
5着	ニホンピロカーン	クビ

白鷺特別を勝利したのはリッチーリッチー。着差は、わずかにアタマ差だったが、3着馬には『5馬身の差』、4着馬には、さらに『3馬身半の差』をつけていた。僅差の勝利だったが、(3着以下の)後続には、大きな差をつけていた。次走、昇級で1着。

例2 バトルグランドリイ
17年彦星賞3着(次走7着)

着順	馬名	着差
1着	ブラックバード	
2着	ジュンザワールド	1 1/4馬身
3着	バトルグランドリイ	1/2馬身
4着	チェルカトーレ	アタマ
5着	プレイヤード	クビ
6着	フェルクレール	ハナ
7着	フリームーヴメント	ハナ
8着	ヴァイスジーニー	ハナ
9着	クラウンスカイ	クビ
10着	ボンボン	アタマ
11着	サンクタリラス	クビ

バトルグランドリイは、彦星賞で9番人気3着に好走。だが、8着馬とはタイム差ナシ。さらに、11着馬とも0.1秒しか差がなかった。つまり、ギリギリの3着であって、一歩間違えば、ニケタ着順に沈んでいたかもしれない。なんとか3着の体裁は保ったものの、“薄氷の3着”だったことが分かる。しかも、その3着の前の2走は10着→17着と連続で大敗していた。つまり、この3着は信用のおけない怪しい3着だったのだ。次走、7着に凡走。

れている。だが、不利な条件が重なって一歩及ばずの凡走なら、妙味がある分、次走で狙う価値はあるのだ。後続との差は、時計以外でレースの価値を測れる貴重な情報源だ。これを活用することで、予想の幅が広がることは請け合いである。前との差(着差)ばかりを気にして、後ろがお留守の予想にならぬよう『後続との差』にも注意を払いたい。

A: コクラクリチャン

- 1着 ○○○○○
- 2着 ○○○○○
- 3着 ○○○○○
- 4着 コクラクリチャン (0.3 差)
- 5着 ハナ差
- 6着 ハナ差
- 7着 アタマ差 ←

このケースで、最もオッズ妙味が発生しやすいのは(4着と差がない)7着馬である。

レースレベルを考慮せよ

レースレベルには偏りが生じる

2008年。『伝説の新馬戦』と呼ばれたレースがある。

- 1着 アンライバルド
- 2着 リーチザクラウン
- 3着 ブエナビスタ
- 4着 スリーロールス
- 5着 エーシンビートロン

1着アンライバルドは、後の皐月賞馬。2着リーチザクラウンは、きさらぎ賞を勝ち、ダービーでも2着。3着ブエナビスタは、ジャパンカップ、天皇賞秋などG1で6勝をあげた名牝。4着スリーロールスは後の菊花賞馬。5着エーシンビートロンは、地方G3を圧勝。1着賞金700万円ほどの新馬戦に、のちのG1級

同じ5着でも雲泥の差

たとえば、前走で5着の馬がいたとする。もし、その5着が、『低レベル戦の5着』だったら、どうだろう? 5着とは言え、実質的には8着程度の価値でしかない可能性が考えられる。逆にハイレベル戦の5着なら、(5着ではなく)2着ぐらいの価値があってもおかしくない。

同じ5着でも、かたや2着の価値、かたや8着の価値。5着という字面の着順は同じでも、(実質的な価

が、大挙して出走していたのである。これは極端な例だが、同じクラスでも、レベルの高いレースと、レベルの低いレースとが存在する。強い馬が、(各レースに)まんべんなく均一に出走するとは限らず、1つのレースに偏ることもあるのだ。言うまでもなく、狙うべきは、レベルの高いレースに出走していた馬である。

値には) 大きな隔たりがある。どちらも、馬柱には同じ『5着』と刻まれるのだから、レベルの高い方を選択した方が、長期で見れば正解なのである。

レースレベル判定法

では、どのようにして、レベルの高低を判断するのか？
方法は2つある。

①前走の成績

(レース前の段階で) 前走で好走している『好調馬』が、多く出走していたら、ハイレベル戦。逆に、凡走つづきの馬や、昇級初戦の馬が多い場合は、低レベル戦と判定できる。

私の場合、『前走で4着内相当の馬(同クラス以上)』が『6頭以上』いるレースを、ハイレベル戦と定義。逆に、上記の該当馬が『2頭以下』の場合を低レベル戦としている。※前走4着内ではないが、それと同等の価値があると判断した場合は、好調馬としてカウントする。前走がソコソコの馬は『半好調馬』として0.5頭でカウント。前走4着内でも、長期休

例2の小豆島特別は、8頭立ての少頭数ではあったが、好調馬が『7頭』のハイレベル戦。注目は、このレースで7着だったディープウェーブだ。同馬は(現級で) 4着→3着ときて、ハイレベル戦で7着。8頭立ての7着だから、いかにもダメっぽい印象を受けるが、上がりは(2位の) 32・5秒をマーク。かなりの脚を使っていた。強い相手に阻まれて着順を落としただけで、決して悪い内容ではなかったのだ。次走、11番人気(単オッズ66・5倍) 3着に激走。

②次走の成績をみる

①のレベル判定法では、出走馬の『前走』の成績に着目した。その上で、今度は、『次走』の成績も確認する。次走以降で好走した馬が多ければ、『ハイレベルメンバーだった』と判断できる。

※次走、以降としたのは、次走はボカや、条件が向きで凡走する馬もいるため。

●勝ち馬は、昇級後も通用しているか？ ●2→4着に好走した馬は、引き続き好走しているか？ ●凡走した馬の中で、次走以降に巻き返した馬はいるか？

例1の木曾川特別は、(前走で好走している) 好調馬が延べ『8頭』出走。通常のレースでは、せいぜい好調馬は3頭前後だから、8頭はかなり多い部類だ。好調馬が乱立する『群雄割拠』のハイレベル戦だったと言える。このレースから、次走以降、多くの激走馬が輩出された。

養明けなど、マイナス面が強い場合はカウントしないこともある。

例1 ハイレベル戦 17年木曾川特別 (1000万条件)

馬名	前走成績
デンコウインパルス	同級 3着
カラビナ	同級 1着
ヴァフフレーム	同級 2着
ボボカテベトル	3歳G2 4着
ララエクラテール	同級 4着
サトノリュウガ	3歳OP 4着
ルックトゥワイス	同級 1着
ショパン	格上 3着

好調馬
(前走4着内相当)

計8頭

例3 ハイレベル戦 16年末勝利戦 (2016.1.23)

着順	馬名	次走成績
1着	ミライヘノツバサ	次走 5人気1着
2着	ユニゾンデライト	次走 1人気1着
3着	マイネルクラフト	次走 2人気1着
4着	メゾンリー	次走 1人気1着
5着	アルマイオラニ	次走 不出走
6着	コウキチヨウサン	次走 8人気4着
7着	アスコットチャンプ	次走 5人気3着
8着	アメンボ	次走 7人気7着
9着	ギンザマトリックス	次走 5人気2着

例2 ハイレベル戦 17年小豆島特別 (1000万条件)

馬名	前走成績
ラブソディーア	下級 1着*圧勝
ディープウェーブ	同級 3着
カイザーバル	同級 1着
ソーグリッターリング	下級 1着*楽勝
ワントウワン	格上 5着
エーティーサンダー	同級 4着
イレイション	同級 3着

好調馬
(前走4着内相当)

計7頭

（着順を上げているか？） レース後に、これらをチェックしていけば、より厳密なレベル判定が行えるだろう。例3の未勝利戦は、前走で（4着内相当の）好調馬が『計7頭』（レース前の段階で）ハイレベル戦と認定できた。そして、レース後に出走馬の『次走』を追跡していくと、上位馬は、軒並み次走で勝ち上がっていた。下位馬も人気以上に巻き返す馬が多かった。

前走と次走の両方からジャッジ

「レース前」↓好調馬が多い

「レース後」↓次走以降も好走している

このように、レース前とレース後（次走以降）の両面からハイレベルと判断できれば、自信を持つて「骨っぽいメンツの揃った」レベルの高い一戦だった」と断言できる。※さらに、勝ちタイムが速ければ、より一層、太鼓判を押せる。前述したハイレベル戦の勝ち馬ミライヘノツバサは、次走、昇級後に即1着。のちに、オープン馬へと出世

同じクラスでもレースのレベルはまちまち。ここで述べたレースレベル判定法を用いて、しっかりとレー

馬場の利を得た馬を買え

馬場が下克上を引き起こす

『水を得た魚』という言葉がある。この言葉の意味は、《自分に合った環境や、自分の得意な状況などになって生き生きとしているさま、よく活躍している様子》と辞書を引くとある。※weblio 辞書

競馬の場合も、突如、水を得た魚状態となり、激走を果たす馬がいる。その水にあたるのが『馬場』だ。馬場によって、人気薄の馬が人気馬を打ち負かす「下克上」が起り得る。

し、G2で激走するなどの活躍をみせた。もし、レースレベルの判定に時間が割けないのであれば、勝ち馬の『馬名』に注目するといいい。勝ち馬が、その後も活躍している素質馬ならば、ハイレベル戦だった可能性が高まる。

他ポイント

●一般競走と特別競走とでは、『特別競走』の方がレベルは高くなりやすい。その理由は、特別競走の方が賞金が高いからだ。※特別競走とは○○特別のように個別にレース名がついたレースのこと。

●表開催と裏開催とでは、『表開催』の方がレベルが高くなりやすい。※表開催とは、東・西メインの開催のこと。この表開催と同時に組まれたローカル開催を裏開催という。

●『牝馬限定戦』はレベルが低くなりやすい。とくにダート戦は要注意。前走・牝馬限定のダート戦↓次走・牡馬混合のダート戦では苦戦するケースが目立つ。

スの価値を見極めて頂きたい。

人気薄が台頭する馬場

馬場は、以下の3つに分類できる。

- ① 高速馬場
- ② 普通の馬場
- ③ タフな馬場

この中で最も注目すべきは、③の『タフな馬場』だ。使い込まれて馬場が荒れたとき、雨が降って重馬場になったとき、（馬場をほぐす）エアレーション作業など。人気薄の馬が、馬場という「地の利」を得て激走する場合、大抵は、このようなタフな馬場だ。その理由は、

タフな馬場によって●人気馬の切れ味やスピードが半減、●(切れ味やスピードのない)人気薄の馬がしぶとさを発揮しやすい、からである。

人気馬は大抵、スピードや瞬発力に秀でている。そういった能力をフルに発揮できる普通の良馬場では、穴馬はなかなか付け入る隙がない。普通の良馬場『ガチンコ馬場だ。ガチンコ馬場では、(スピードや瞬発力で劣る)人気薄の馬が、人気馬に真っ向勝負を挑むのは、いかにも不利である。だが、『タフな馬場』なら話は変わってくる。

パジェロがフェラーリに勝つ日

切れ味のない馬は、普段、切れ負けして着順を落としていることが多い。だが、そんな馬が、一概に弱いとは言い切れない。あくまで特性の違いだからだ。次のようにイメージすると分かりやすい。

・切れる馬(人気馬)↓『フェラーリ型』
・切れない馬(人気薄)↓『パジェロ型』

ンは5着に失速。切れタイプの1番人気ストレイトガールは、かろうじて3着に踏みとどまったものの、4着エーシントップとはわずかにクビ差だった。

このタフな馬場に乗じて勝利を収めたのはコパノリチャードだった。同馬は時計のかかるタフな馬場は“どんとこい”のタイプ。それは、過去の戦歴、とくに前走の阪急杯からハッキリと読み取れる。

前走の阪急杯は、4馬身差の逃げ切り勝ち。注目はこのときの“上がり3ハロンのタイム”だ。※上がり3ハロン＝ラスト600mのタイム

(レース全体の)上がり3ハロンは『35・8秒』。この上がりタイムは、重賞レースにしては、かなり遅い(かかっている)。コパノリチャードが、4馬身も突き放して勝利したにもかかわらず、上がり35・8秒だからかなりの遅さだ。これが、意味するところとは何か?

それだけ『タフな消耗戦だった』ということだろう。消耗戦で“圧勝”するぐらいだから、コパノリチャードは(タフな展開が得意な)『パジェロ型』の馬とみて、まず間違いない。そして引き続き、消耗戦となった高松宮記念で激走を果たしたのである。

きちんと舗装されたコース(速い馬場)では、フェラーリ型の馬が強い。一旦、加速してスピードに乗ると、手が付けられなくなる。フェラーリに混じってパジェロが走ったところで、スピード負けしてしまうのは自明の理である。

だが、舗装されていないボコボコのオフロード(タフな馬場)では、パジェロのような四輪駆動タイプの出番だ。(フェラーリ型の)人気馬が、タフな馬場によって切れ味を削られる一方、パジェロ型の穴馬は自慢の馬力をいかしてブイブイ走る。人気馬がマイナス。穴馬がプラス。この落差によって、下克上の逆転現象が生まれる。

下馬評をひっくり返した馬場の影響

14年の高松宮記念。当時は、折からの雨で馬場状態は『不良』。ただでさえタフな中京の馬場は、タフさに輪をかけ、ダートなみに時計のかかる馬場になっていた。案の定、この特殊馬場は下克上を引き起こした。(時計の速い馬場が得意な)2番人気のハクサンムー

2着に入線したのはスノードラゴン。同馬は、もともとダートで走っていたパワータイプの馬。勝ったコパノリチャード同様、地の利を得た好走だった。※スノードラゴンは、後にスプリンターズSでも13番人気1着に激走。このときも、雨の影響で(やや上がりのかかる)タフな馬場だった。

1着馬、2着馬ともに、切れはないが簡単にはバテないタイプ。馬場という地の利を味方につけ、120%の実力を出し切ったことで、好走を引き寄せた。ちなみに、15番人気4着のエーシントップもダートのオープン勝ち馬。『タフな馬場向きなパジェロ型の馬』と言えるだろう。

他に、消耗戦のレースと言えば、トーセンクラウン、ティエムアンコールの2頭で決着した2010年の中山記念が記憶に新しい。連対した2頭は2頭とも“重馬場の鬼”オペラハウスの産駒。そして、どちらも、上がりのかかる消耗戦で好走歴があった。

上がり3ハロンでタフさをはかる

レースの質が、タフか否かを見極めるには『レース全

体の上がり3ハロン』を見るといい。※レース全体の(上がり3ハロン：逃げ馬が残り600mを通過してから、1着馬がゴールするまでのタイム

(芝レースの場合) レース全体の上がり3ハロンが『35秒台後半』よりかかっていれば、タフな消耗戦。逆に、『34秒台前半』以下ならば、軽い瞬発戦と判断できる。※新潟外回りは33秒台

過去のレースを確認し、全体の上がり(3ハロン)が速い瞬発戦でよく好走しているなら『フェラーリ型』。上がりのかかる消耗戦でよく好走しているなら、『パ

ジェロ型』と判定できる。
もし、荒れ馬場や重馬場、ハイペースの消耗戦が想定されるなら、パジェロ型の馬を積極的に狙うといいだろう。

「天の時は地の利にしかず。いかに(クラス卒業のタイミングを迎えた)人気馬と言えども、地の利を得たタフな馬には敵わない。タフな馬場で、キツチリとタフ向きの馬に印を打てるかどうか、年間の収支を大きく左右する。特殊な馬場では「地の利を味方につけるのはどの馬か」を、よく見極める必要がある。

瞬発戦タイプと消耗戦タイプを意識せよ

2つのタイプに分類する

馬のタイプを手っ取り早く把握するには、次の1点に意識を集中するとい。その馬は、『瞬発戦に強い

タイプ』か、それとも『消耗戦に強いタイプ』か。この2つのうち、どちらに当てはまるかを考えれば、大まかな馬のイメージは掴める。
過去に、33秒台のような(全体の)上がりが速いレ

ースで好走していれば『瞬発戦タイプ』。36秒台のような(全体の)上がりが遅いレースで好走していれば『消耗戦タイプ』。ザックリだが、この2タイプに分類して考えれば、その馬のタイプを把握できるようになるはずだ。

正反対の2頭の名馬

瞬発戦タイプと消耗戦タイプ。この両者の代表選手には、どんな馬がいるだろうか？ 次の2頭の名馬が分かりやすいだろう。その2頭とは、ジェンテイルドンナとゴールドシップだ。この2頭は同じ世代の馬で、実際にいくつかのレースであいまみえている。対戦成績はまったくの五分。実際に、両者が激突したレースをみてみよう。

2013年宝塚記念

1着 ゴールドシップ

3着 ジェンテイルドンナ

※全体の上がり3ハロン 『38・0秒』

2013年ジャパンカップ

1着 ジェンテイルドンナ

15着 ゴールドシップ

※全体の上がり3ハロン 『34・1秒』

2014年宝塚記念

1着 ゴールドシップ

9着 ジェンテイルドンナ

※全体の上がり3ハロン 『35・6秒』

2014年有馬記念

1着 ジェンテイルドンナ

3着 ゴールドシップ

※全体の上がり3ハロン 『34・6秒』

もうお気づきだろう。そう、レース全体の上がり3ハロンが速いとき(34秒台)は、ジェンテイルドンナが先着。逆に、レース全体の上がり3ハロンが遅いとき(35秒台後半以降)は、ゴールドシップが先着している。注目すべきは、この両者が(そろって1着、2着の)ワ

ン、ツを決めたことが、ただの一度もないことだ。

両雄並び立たず

ディープインパクト産駒のジェンティルドンナは“瞬発力”が武器。それに対し、ステイゴールド産駒のゴールドシップは“持久力とスタミナ”に秀でている。両者はまったく正反対のタイプ。2頭が同じレースでワン、ツを決めたことが、ただの一度もないのは、この『馬のタイプ』と無関係ではないはずだ。

上がりの速いレースでは、瞬発戦タイプのジェンティルドンナが有利。一方、上がりのかかる（タフな）レースでは消耗戦タイプのゴールドシップが有利になる訳だ。

ゴールドシップ、ジェンティルドンナ。どちらも“名馬”の域に達した馬。それだけに勝敗を決するのは、どちらが強いのか？ というよりも、自分の土俵で勝負できたか否か、自分の得意な『レース質（瞬発戦・消耗戦）』だったかどうか、が勝敗を分けたのである。結果的に、それぞれの持ち味がいきる流れできつち

りと先着。持ち味が削がれる流れで、きつちり負ける結果となった。

このように、馬のタイプには『瞬発戦タイプ』『消耗戦タイプ』の2通りがあり、そのタイプに合った流れだと好走しやすい。

・上がりの速いレースに強い↓瞬発戦タイプ
（代表選手…ジェンティルドンナ）

・上がりのかかるレースに強い↓消耗戦タイプ
（代表選手…ゴールドシップ）

瞬発戦 or 消耗戦になりやすいコース

では、この両タイプに分類した上で、予想の際、どのように活用すればいいのか？

まず、コースには、瞬発戦になりやすいコースと、消耗戦になりやすいコースがあることを頭に入れておくべきだ。

瞬発戦になりやすいコースの特徴

- ・直線が長い
- ・直線がフラット（急坂がない）
- 〔東京、京都、新潟外回り等〕

消耗戦になりやすいコースの特徴

- ・直線が短い（内回り、小回り）
- ・急坂がある
- ・洋芝、荒れ馬場
- 〔中山、阪神内回り、ローカル開催後半、北海道等〕

急坂の有無

直線に急坂があると、そこでもうひと踏ん張りする必要があり、消耗戦になりやすい。逆に、直線がフラットなら、どんどんギアを上げてスピードに乗れる分、瞬発戦になる傾向。たとえば、京都（外回り）コースは、4角から下り坂となっており、直線はフラット。構造的に瞬発戦になりやすいコースだ。

〔タフ〕急坂⇄フラット〔瞬発〕

直線の長さ

直線の“長い”コースは瞬発戦になりやすい。直線が長ければ、その分、スピードに乗れるし、騎手が長い直線を意識してペースが緩みやすくなるからだ。ペースが緩めば、必然的にヨイドン瞬発戦が多くなる。

逆に、直線の“短い”コースでは消耗戦になりやすい。直線が短いと、「早く仕掛けなければ間に合わない」という騎手心理が働くため、早仕掛けのロングスパート戦が多くなるからだ。

〔タフ〕直線が短い⇄直線が長い〔瞬発〕

芝の種類

芝の種類によって、時計のかかり具合は違う。（クッション性があつてパワーが必要な）『洋芝』は時計

コース別タフ度

芝	軽い		タフ	
軽い	新潟(外)	東京	京都(外)	阪神(外)
中	京都(内)	小倉	福島	中京
タフ	阪神(内)	函館	中山	札幌

ダート	軽い					タフ
軽い	東京					
中	札幌	函館	京都	福島	阪神	
タフ	小倉	新潟	中京	中山		

がかりやすく、その分、消耗戦になりやすい。※北海道(札幌、函館)が洋芝のコース
一方、路盤が硬い『野芝』(及びオーバーシードの馬場)は速い時計が出る。その分、(洋芝よりは)瞬発戦になりやすい。※オーバーシード＝野芝の上から洋芝の種をまく
また、雨が降って重馬場になれば消耗戦に、パンパンの良馬場なら瞬発戦になりやすい。

「タフ」洋芝⇄野芝「瞬発」

ゴールドシップを狙うべきコース

瞬発戦になりやすいコースで『瞬発戦タイプ』の馬を狙う。消耗戦になりやすいコースで『消耗戦タイプ』の馬を狙う。基本、これが定石となる。

だから、消耗戦タイプのゴールドシップは、タフなコース(すなわち、中山コースや阪神内回りなど)で狙うべき。具体的には、有馬記念や宝塚記念などである。逆に、(軽い)東京や京都では、評価を下げるべきだ。

一方、瞬発戦タイプのジェンティルドンナは(東京

コースの)ジャパンカップや天皇賞秋で狙うべき。そして、(中山や阪神内回りの)有馬記念や宝塚記念では評価を下げるべきなのだ。

「むむむ…!! ジェンティルドンナは(中山の)有馬記念で有終の美を飾りましたよね。それに、ゴールドシップは京都の天皇賞(春)を勝っています。話の内容が矛盾していませんか?」と思われるかもしれない。

例外もある

だが、ジェンティルドンナが勝った有馬記念は空前絶後の『超スローペース』。※時計は同日の1000万条件より1.5秒も遅かった。つまり、消耗戦になりやすい中山コースではあったが、超・スローだったため、例外的に真逆の瞬発戦になったのだ。その結果、ジェンティルドンナが、ゴールドシップに先着できたのである。

では、ゴールドシップが(京都の)天皇賞(春)を勝った要因は? これは『散水』の影響だ。散水の影響により、ゴールドシップ向けのタフな馬場に豹変した

ことで(苦手とされていた)京都コースを克服できた。※厳密に言うと、散水は普段から行われている作業だが、当時は(晴れの天気予報が外れ)曇りとなったため、結果的に、撒いた水が乾燥せずに(主催者の意に反して)水分過多の馬場となった。

また、天皇賞(春)は、もともと長距離戦なので、同じ京都コースでも(中距離以下の距離と比べれば)タフな展開になりやすい。

このように、必ずしもタフなコースで、タフな消耗戦になるとは限らない。同様に、軽いコースで、軽い瞬発戦になるとも限らない。展開や馬場によって、『瞬発戦⇄消耗戦』のベクトルが変化することもある。

だが、展開は、読みが外れることもしばしば。馬場は、目まぐるしく変化する。それに対し、コース形態は不動。だからこそ、瞬発戦になりやすいコースで瞬発戦タイプの馬を狙い、消耗戦になりやすいコースで消耗戦タイプの馬を狙う。これが、(長期的に見れば)正解であり、定石と言えるのだ。

苦手なレース質で善戦したら

たとえば、ゴールドシップは上がりの速い瞬発戦は苦手なタイプだ。だから、もし苦手な瞬発戦で敗れたとしても評価を落とす必要はない。それなりに走ってきたとしたら、高評価できる。たとえば、(実質)瞬発戦となった日本ダービーで、ゴールドシップは5着に

敗れた。だが、苦手な瞬発戦で5着なら、よく善戦したと、高評価を与えることができるのだ(次走、神戸新聞杯で1着)。

逆に、瞬発戦タイプの馬が消耗戦で健闘したら、それも評価に値する。

このように瞬発戦タイプ、消耗戦タイプを意識するだけで、予想の幅は大きく広がりを見せるのである。

同日のタイムと比較せよ

タイムは能力のモノサシ

タイムが優秀だった馬を買い続ければ競馬は勝てるか? と問われれば、答えはNOだ。なぜなら、スピード指数が普及した現代において、タイムは抜け目なくオッズに反映され、(仮に的中しても)相応のリターンしか得ることができないからだ。つまり、速いタイ

ムには優位性がない。優位性がない武器は、武器にはなり得ず、これでは(長期的には)儲かりようがない。タイム理論による必勝法は、もはや過去の遺物と言えるかもしれない。

それでも、競馬が競技である以上、タイムは重要な馬の能力を判断するうえで、一つのモノサシになるからだ。

たとえば、過去に同クラスで2着の実績があるという。目ぼしい実績は、この2着だけとする。この場合、その2着に(タイム的な)価値があるのか? ないのか? によって馬の扱い方は大きく変わってくるはずだ。

もし、タイム的に価値があるのなら、その2着を根拠に『現クラスで通用の力はある』と判断できる。逆に、タイム的に価値が無いのであれば、その2着は、あまり鵜呑みにはできない。現クラスで通用するかは、まだ未知数だ。時計の裏付けが無い馬よりは、ある馬の方が、やはり信頼には足る。※だから、スローペースで好走しても、ハッキリと地力を示したことはない(よほど速い脚を使った場合は別だが)。

同じ週同条件と比べる

この時計だが、てつとり早くその価値を知るには、『同じ週の、同条件のレース』と比較するとい。たとえば、当該レースが、土曜の『東京芝1600m』だとする。この場合、まずは同じ日(土曜)に同じ条

件(東京芝1600m)が組まれていないかを調べ、そのレースとタイムを比較するのだ。次に翌日・日曜の東京芝1600mもチェックする。

なぜ、同じ週か?

馬場は、週をまたぐと時計のかかり具合が全然違うことがある。だが、同じ週ならば(雨の影響がない限りは)大きな変動はないはずだ。馬場差(馬場状態による時計のかかり具合の違い)などの、ややこしい計算をしなくて済む。

なぜ、同条件か?

同条件(同じ競馬場の同じ距離)なら、直接タイムを比較できるので単純に便利。また、まったく同じ条件なので、(走破タイムだけでなく)上がりタイムやペースなどを比べて、よりレースの価値を見極めやすい。

(タイムを比べる際の)注意点は『ペース』だ。スローペースなら当然、タイムは遅くなる。その遅くなったレースと比べても、あまり参考にはならない。スロ

ーの場合、『上がりタイム』に注目するといふ。

上がりタイムも比べる

比較できるタイムは、走破タイムだけとは限らない。『上がり3ハロン』のタイムも同時に比べること

で、レースの価値をより深く把握することができる。たとえば、2017年のアーリントンカップ。このレースで勝利したペルシアンナイトが叩き出した『勝ちタイム』と『上がりタイム』は、どちらも極めて優秀なモノだった。この両方のタイムによって、『タイム的な価値が大きい』ことを確信するに至るのだ。

アーリントンカップの勝ちタイムは『1分34秒1』。この1分34秒1は、同日の1000万条件と比べて『0.9秒』速かった。

しかも、その(比較対象の)1000万条件のタイムは、勝ち馬(ピンストライプ)が『3馬身』突き放してマークしたもの。つまり、アーリントンカップの勝ちタイムは、『3馬身圧勝した馬(ピンストライプ)の勝ちタイムを1秒近くも上回る高水準のタイムだった』の

である。

単純に勝ちタイムの比較では、アーリントンカップの時計は、超優秀だったことになる。ただし…。

1000万条件の方は『スローペース』。アーリントンカップの方は『ミドルペース』。両者はペースが違っていた。比較対象のレースがスロー。スローのレースと比べても、あまり参考にはならないと先に述べた。

ここで、ポイントになるのが『上がり3ハロン(後半3ハロン)のタイム』だ。(1000万条件を圧勝した)ピンストライプと、ペルシアンナイトの前半・後半3ハロンのタイム(※馬自身のタイム)を見比べて欲しい。

●ピンストライプ(1000万条件圧勝)

前半3ハロン…36・7秒

後半3ハロン…34・4秒

●ペルシアンナイト(アーリントンカップ1着)

前半3ハロン…36・5秒

後半3ハロン…34・0秒

ペルシアンナイトは、(ピンストライプよりも)前半・後半3ハロンともに速いタイムで走っていた。具体的には、前半で『0.2秒』速いペースで追走し、後半で『0.4秒』速い脚を使っている。速いペースで追走しながら、ラストも伸びたのだから優秀だ。(ミドルペースだったのに)スローペースで脚を溜めた馬(ピンストライプ)よりも、速い脚を使っていたのである。

ピンストライプのレースにしても、決して凡戦だったワケではない。何せ『3馬身差の圧勝』である。これが意味するところとは何か？

アーリントンカップ時のペルシアンナイトは、1000万条件を3馬身差で圧勝した馬よりも、さらに優秀だったと(勝ちタイム、上がりタイムから)判断できるのだ。つまり、優に(1つ上の)1600万条件で通用の力があると判断できる。3歳春の時点で1600万条件で通用するなら、3歳G1なら勝ち負けできる計算だ。※事実、同馬は次走の皐月賞で2着に好走。のちに、3歳馬としては17年ぶりにマイルチャンピオンシップを制した。ペルシアンナイトがアーリントンカップでマークし

2017.2.25 アーリントンC(阪神芝1600m・外)

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	着差	上3F	人気
1着	ペルシアンナイト	牡3	56	M.デムーロ	1.34.1		34.0	1
2着	レッドアンジェル	牡3	56	浜中	1.34.6	3	34.3	6
3着	ディバインコード	牡3	56	柴田善	1.34.8	1・1/4	35.2	3

2017.2.25 丹波特別(阪神芝1600m・外)

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	着差	上3F	人気
1着	ピンストライプ	牡5	57	川田	1.35.0		34.4	1
2着	レーズドブリエ	牝5	53	池添	1.35.5	3	34.5	4
3着	プレミアムテレー	牝5	54	松若	1.35.5	クビ	34.1	9

chapter 1

基礎編

た上がり3ハロンは、出走馬中、ナンバー1。さらに、（スローだった同日の）1000万条件と比べてもナンバー1タイだった。※加えて、全体時計も0・9秒速いのだから、文句のつけようがない。

このように（走破タイムだけでなく）上がりタイムも絡めて比較すれば、いろいろなことが見えてくる。

- ・馬自身の上がり3ハロン
- ・レース全体の上がり3ハロン
- ・走破タイム

これらのタイムをそれぞれ比較することで、より多面的なタイム分析が可能となる。また、ペースを比べることで、ペースの厳しさもはかることができる。タイム分析は、まずは同日の同条件と比較すべし、だ。